

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602496
法人名	有限会社モク・コーポレーション
事業所名	グループホーム銀の庵 (ユニット名)
所在地	福岡県久留米市国分町1571-8
自己評価作成日	令和元年11月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は住宅街の中にあり、1ユニット9名様の入所者様がゆったりとした時間の中で生活しておられます。平成30年の2月に北野町から移転し、徐々に近隣の方々との交流も増え、お花やお野菜をいただいたりしています。散歩の折には庭の花々と一緒に眺めたり、会話を楽しんだりしています。リビングを中心に居室がありどこにいても安心して過ごすことができるような作りになっています。その人らしい生活ができるように支援を行い病状が悪化しても不安なく過ごせるように主治医、訪問看護を中心に法人全体で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から入り込んだ閑静な住宅街に立地している。昨年11月に新築され、木目調の建材が使われ落ち着きがあり、地中熱利用換気システムを取り入れた健康や環境に優しい造りとなっている。廊下は広く、車いすでも自由に移動ができ、台所とリビングを囲むように各居室が配置している。職員は、理念にあるその人らしい暮らしを支援するために、一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけ、笑顔での対応をしている。新しい地域にも早く溶け込みたいとの思いから、散歩の際は積極的に挨拶をしたり、行事への参加をよびかけたりしている。会社は久留米市内で10ヶ所の福祉施設・事業所を運営しており、事業所間が連携を図りながら、今後も地域福祉情報の発信拠点として、おいおい期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした福祉づくり、その人らしく生きていく為の支援などを理念にあげ、本人の希望に添うようにサービスに務めている	昨年、事業所が移転した際に、管理者・職員間で理念の見直し検討を行ったが、現状の理念のままでいくことを決めた。理念は額にして玄関の正面にかけ、職員は出勤時に確認をしている。理念にある「その人らしく」を常に意識したケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し今年度の組長を担っている。ゴミ当番や地域の行事への協力も行っている	隣の大家さんやボランティア訪問が頻回にあり、大家さんが自宅に利用者をお茶に誘ってくれたり地域住民との交流がある。組長の役割で市報配りを利用者と共に行い、顔なじみの関係が出来ており、家庭菜園で採れた野菜やお花の差し入れもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会にも参加し運営推進会議などで事業所への理解を得ている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の方々の身体状況や行事説明、スタッフ会議の内容について説明をしたりしている。入居者と直接話しをしていたり、してグループホームへの理解を深めていただいている。会議の内容は職員会議で報告しサービスの向上に活かしている	民生委員・近隣住民・利用者・地域包括支援センター職員等の参加で、2ヶ月毎に開催している。住民からの「何故玄関のカギをかけないのか？」の質問に、管理者が自宅のように自由な暮らしの大切さと、事業所の取り組みについて説明をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議、研修会には出来るだけ出席するようになり他事業所の事例、新しい情報を知り、サービスの質の向上に役立てている	職員は市の窓口を訪問し、提出書類の記入について質問したり、利用者の抱える悩みの対応について相談したりしている。包括支援センターからの空き情報の問い合わせがあり、市とも協力して、利用者の緊急受け入れを速やかにしたことがある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行っており職員全体で理解できるよう取り組んでいる。玄関は基本的に鍵をかけるようにしているが、入浴、排泄時に職員が2人がかりで介助する場合等人手の足りない時はやむを得ず一時的に玄関に施錠する場合もある	会社の全体研修に参加し、職員会議や新人研修でも身体拘束の弊害や対策について学習の場があり、基本的な拘束内容については理解が出来ている。運営推進会議で身体拘束適正化委員会を開催し、外部の目で事業所内の様子を観察してもらう機会もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	運営推進会議でも毎回虐待について再確認するようにしている。定期的に学習会を行っており職員同士で協力し合い虐待の無いように注意している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回学習会を行っている。必要性があると考えられる場合すぐに活用できるように、パンフレット資料等をそろえている。また、入居の際にはご説明し資料をお渡ししている	職員は全体研修で権利擁護について学ぶ機会がある。社会福祉協議会が支援する日常生活自立支援事業の利用者が居て、内容は概ね理解している。必要な利用者・家族へは管理者がパンフレット等で説明する体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご利用者様、ご家族様に契約書、重要事項説明書等を読み上げ説明を行なっている。その際質問、疑問点があれば説明を行ない理解、納得を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方と職員は日頃から親しく話し合える関係にあり、ご自分の希望をはっきりと伝えている。ご家族、ご親戚等の訪問時には必ず職員が話を聞くようにしておりご不満、希望があれば検討し対応するようにしている	家族からは外出機会を多くしてほしいとの意見があり、日頃の散歩や通院時に買い物やドライブに等で外出支援に取り組んでいる内容を説明している。職員の異動の際は、家族が訪問時に紹介をするように心がけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の際に意見を聞く時間をとっている。日頃から職員の意見や提案を聞けるように心がけている	職員は管理者に意見が出しやすく、業務に必要なものがあれば、管理者に伝え、本部に申請して購入してもらおう体制がある。シフトで遅出職員が配置出来る体制への要望を提出し、代表、管理者は、人材確保に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来、給与基準を定め、人事管理を行ってきた。処遇改善交付金も利用し今後のキャリアパスに向けてさらに給与規定を準備していきたい		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に当たっては何の制限も設けていない。30代から60代の年齢層でそれぞれの希望や個性に合わせ勤務体制を組んでいる。	職員は希望休暇が取りやすく、社会参加が出来る。職員の特技であるストレッチ、歌、貼り絵などを、利用者のレクリエーションの中に活かす場面がある。職員の昼休みは休憩室が用意され、ゆっくり休憩が取れている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部学習会を開いたり、日々のケア中でも互いに言葉遣いや、ケア内容について注意しあったり話し合ったりしている	管理者は、職員会議の中で、さん付け呼称や、目線を合わせた対応、居室を訪問する際はノックや声掛けをして了承を得てから入室するなど、利用者の尊厳を大切にしていこうとつながることを教示している。食事の際のエプロン使用方法も利用者、家族の理解を得て活用に至っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に2回以上の研修レポートを義務付け各種の講演会や学習会の参加を呼びかけている。研修会等に参加した者は会議の場で研修内容を発表し、皆で検討し、ケアに活かせるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に所属し、そこでの勉強会などに参加したり、他事業所の話、事例を参考に向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、困っていること要望等をお聞きしながら、信頼関係が築けるよう努めている。コミュニケーションを絶えずとるようにし、小さなサインも見逃さないように努力している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪された折にはゆっくり話をする機会を作るようにしている。その際、困り事、不安、要望をお聞きするようにしている。電話での相談も受けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけてなるべく詳しく話を聞き本人にとって最適な支援は何かを見極め、出来るだけ家族や本人の希望に添うよう支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食器の片付けや洗濯物を干したりたたんだりする際、お話ししながら楽しみながら一緒にするようにしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の都合のいい時間に訪問していただき、お部屋、リビングで一緒に過ごしていただいている。その際、職員が日頃の様子、会話の内容をお伝えし、情報を共有するようにしている。本人の状態の変化があった場合などは相談に乗っていただいて今後の方針を考えていくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪された折には、一緒に過ごしていただくようにしている。機会があれば馴染みの場所にお連れしたりしている。電話、手紙のやり取りをされている方もいる	協力医通院は職員が車で送迎しており、帰りに入居前に住んでいた家の近くをドライブし、馴染みの風景を楽しんでいる。家族が自宅に連れて帰ることもある。家族、知人の訪問の際は職員がお茶を出し、ゆっくり談笑出来るよう配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合って洗濯物を干したりたんだり食事の準備や下ごしらえをお手伝いしていただいている。出来ない方は、出来る方がお手伝いされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退所されたご家族からの相談があった場合には応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのかわりから個々の特徴、生活をとらえ希望、気候を把握するようにしている。言葉数の少ない方は表情や態度から汲み取るようにしている	職員は利用者との対話の中や難聴の利用者とは筆談で思いや意向を聞いている。困難な場合は日々の生活状況を観察したり、家族より今までの生活歴や好み等を聞き取り、職員間で共有を図っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で昔話をしたりご家族からお話していただいたりしている。ご親戚、ご友人が訪問されたときにも聞き取りをし役立てている。入所前のサービス利用時の情報も事業所から頂くようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に、身体状況、精神面、活動したことを記載するようにしている。全職員が記録に目を通し情報を共有するようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、意向を確認し、主治医とも相談して作成している。また、希望、意向を直接表現できない方もおられるため、表情や態度から汲み取るようにし職員全体で本人のニーズが何か話し合いながら作成している	ケアマネジャーがカンファレンスの中で情報を収集し、介護計画を作成している。3ヶ月毎に、職員からも意見を聞き、モニタリングをしている。利用者・家族からの要望の変更があれば、随時計画の見直しを行う体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に身体状況や日々の様子、食事、水分量、運動量、会話した内容なども記録し全職員が目を通すようにしている。変化があった場合には話し合いを行い見直しに活かせるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望には出来るだけ添えるよう努力している。入院された場合も家族に代わって見舞い、洗濯物を取りに行ったり、遠くのご親戚が訪問された場合に宿泊していただいたりしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の他にボランティアとの交流、以前に利用していた施設スタッフとの交流も行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医をを設け急変時にも柔軟に対応が出来るようしている。 家族が希望される医療機関がある場合はその医療機関を受診している。	利用契約時に今までのかかりつけ医の継続が出来ること説明している。内科は全員提携医を希望され、往診や職員が同行する通院で対応している。専門医の他科受診は、家族が通院介助し、提携医との診療情報共有があり、事業所は家族から情報を聞いたり、不明な点は電話で病院へ尋ねたりしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護師に報告している。変化があった場合にもすぐに看護師に報告し、必要があれば主治医に連絡を取り、適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員が付き添って必要な情報提供を行うようにし、早期に退院できるよう度々病院に出向き医師、看護師と情報交換している。退院に向けての受け入れ態勢も整えるようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される時点で、ご本人、ご家族の意向をお聞きするようにしている。訪問された時や機会あるごとに話し合いを行うようにしており、状態の変化があった場合は主治医も交えて今後の方針を考えていけるように支援している	職員は、家族・医療関係者と連携を図りながら、看取りの経験がある。職員が不安な時は、いつでも医師や看護師に相談できる体制があり、付き添い家族の休憩室や、寝具の準備もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同系列の訪問看護事業所の看護師から初期対応の仕方等を学んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。地域の方々には運営推進会議等で機会あるごとに、災害時の協力をお願いしている	火災、地震、風水害別マニュアルが作成され、年2回の避難訓練の予定がある。地域住民への協力依頼も行っているが、今年度は事業所の移転後で、まだ訓練が実施されていない。非常口下に大型テレビを設置しており、安全でスムーズな避難経路の確保に至っていない。	有事に備え、職員がスムーズに利用者の避難誘導ができるよう、地域住民の参加、協力を得ながら定期避難訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに丁寧な言葉遣いで尊厳を傷つけないように配慮しながらその方に適した言葉で分かりやすく対応している。	トイレ誘導の際、職員はさりげない声掛けを心がけている。日中も布団の上で横になって過ごす利用者には、フロアで庭が良く見える一角につい立てを活用し、他の利用者と共に好みのスタイルで過ごしてもらうなどの工夫をしている。見守りをしながらの記録は利用者や外部の人から見えないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表せるように、簡単な言葉や方言でお聞きしたり、お話かけをし、ご本人が決定しやすいように工夫しお尋ねしたりしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望、体調や状況に合わせて、起床、就寝、食事の時間なども変えている。外出やレクリエーションも無理強いせず、希望にそって行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度程度の訪問理容。外出時や行事の時に化粧が出来るように支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様のリクエストや季節に応じた食事づくりを行っている。お好み焼き・焼きそば作り・等ご利用者と一緒に準備など手伝って頂いている。	朝夕の献立は委託業者の宅配を利用するが、昼食は利用者の希望を取り入れ、職員が調理する。週1回は利用者の出来る事を手伝ってもらい、職員も同じ食事を摂り、団欒のひと時を過ごしている。職員の買い物に利用者が同行し、自分が食べたいものを購入して、個別に食べることもできる。事業所内での運動会には弁当箱に利用者が好みで盛り付けをして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	太りすぎ、やせすぎのないように食事量、内容、水分量に気を配っている。個人に合わせ、量を調整し、きざみ、、とろみ食などそれぞれに合わせている。食事量の少ない方には栄養価の高いものを召し上がっていただくようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る範囲で毎食後に歯磨きやうがいを行っている義歯を使っている方は夜間はずしてもらい消毒をしている。訪問歯科の定期的な往診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排尿記録をつけ失敗のないようにトイレ誘導、介助を行っている。訴えのある方はその都度、訴えない方は時間でトイレまで誘導するようにしている	一人ひとりの排せつパターンや利用者の些細な動きなどを把握し、声掛けを行っている。在宅時にはオムツ使用の利用者が、適切なトイレ誘導をすることで、日中はリハビリパンツにパットで過ごせるようになった事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のために食事量に配慮し野菜、芋類を多くして、ヨーグルトをおやつに食べていただくようにしている。排便記録をつけ個々に排便周期を把握し、水分補給、服薬支援をおこなっている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は基本的に決めているが、入浴嫌いの方もおられ、お声掛けしながら、本人の希望や、体調に合わせて入浴できるよう支援している	利用者と共に着替えを用意し、職員は入浴が楽しみとなるような声掛けをしている。利用者の中に姉妹の方がいて、二人で仲良く入浴を楽しめることもあった。事業所にはリフト浴、ストレッチャー浴槽等の設備があり、身体状況に応じ、安心してお湯に浸かることができ、喜ばれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に、家での生活習慣にあわせるようにしている。就寝時間も今までの習慣や希望に合わせている。寝具類も慣れたものをご家族に持ってきていただいたりしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬ボックスを作っており、説明書き、処方箋をファイリングし服薬状況用法、容量を確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭に出て散歩をしたり、音楽や歌を楽しまれたりしている。新聞を読むことを日課にされている方など本人の希望や趣味を活かして過ごしていただいている。掃除や食事の準備後片付け、洗濯物を干す、たたむなど出来るだけ一緒に行うようにしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には希望があればいつでも外出できるように支援している。	日常的な散歩をはじめ、敷地が広く四季の花が楽しめる庭があり、外気に触れる機会がある。日光浴をすることもある。利用者の希望でドライブや買い物に行ったり、遠方や自宅へは、家族が連れて行くこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご自分でお金を払っていただいたり、支払しやすいように、財布を開ける介助をしたりしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある場合は自宅、友人宅に電話したり、こちらから連絡してお電話していただいたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、玄関や居間にいけるようにしており、季節感のある物を皆で作って飾るようにしている	事業所の廊下には地下からの空気が流れる工夫があり、室温を調整している。冬は暖かく夏は涼しく過ごせるようになっている。フロアの窓が大きく、広い庭の四季の花木が絵画のように見える工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	温かみのあるリビングで座席も気の合った方同士が隣り合わせになるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物を持ってきて頂いている。ご本人が過ごしやすいようにそれぞれでベッドの位置も工夫している。	利用者が自宅で使用していた家具や、身体状況に合わせた寝具やベッドを持ち込み、家族と相談しながら使いやすいように配置している。家族のアルバムや大事にしてきた小物など、持参したものは箱に入れて管理し、いつでも好きな時に取り出し楽しめている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋にプレートなどを貼りご本人が認識しやすいよう工夫している。		